

確かな学力の定着・向上を目指した指導の工夫

～ 対話的な学びを取り入れた授業の工夫 ～

主体的に判断し、工夫して実践する金融教育の授業づくり

本校の児童は、全体的に明るく素直で、何事も前向きに取り組むことができる雰囲気がある。

本校ではこれまで、基礎学力の確実な定着を図った授業づくり・授業改善を進め、児童の確かな学力の定着・向上を目指し研究を進めてきた。また、昨年度からは、新学習指導要領の実施に伴い、対話的な学びに視点を当て、児童同士の意見の交流を行うことで、考えを広めたりより深い理解につなげたりするような学習を仕組むことを目指した指導の工夫を研究のサブテーマとした。本年度は、それらを継続するとともに、コロナ禍における対話的な学び成立の工夫について手探りながら取り組んだ。また、確かな学力の定着に向けて、家庭学習定着の推進等に取り組んだ。

また、昨年度より2か年にわたり、山梨県金融広報委員会より、「金融・金銭教育研究校」を委託された。金融教育は、お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育である。金融教育に取り組むことは、本校の研究主題にある、「確かな学力」の主体的に取り組む態度や思考力・判断力・表現力を育成することにつながると考えられる。そこで、主体的に判断し、工夫して実践する金融教育の実践を行うこととした。

I 研究の内容と方法

1 授業づくりの研究

R・P・D・C・Aサイクルの確立

(1) 児童の実態把握

- ・「NRT」の結果の分析
- ・Q-Uを活用しての児童の実態把握

(2) 課題解決に向けた取り組み

- ・金融金銭教育の視点を生かした主体的な学びの実践授業
- ・課題に対する改善プランの作成と一人一実践授業
- ・主体的に対話的な学びの実現に向けての工夫
- ・「やまなしスタンダード」による授業改善
- ・家庭学習と連動した授業の工夫

(3) 講師を招聘しての学習会

- ・6月17日 「プログラミング教育」について mブロックの演習 授業活用実践例
講師 峡東教育事務所 指導主事 中村 弘和先生
- ・7月 1日 5年生授業「お金はためてうまく使う」～見えるお金・見えないお金～
学習会 5年生の授業を通して金融教育について
講師 教育研究所所長 金融教育アドバイザー 上笹純夫先生

2 学習環境・基盤づくり

- (1) Q-Uを活用した学習集団づくり
- (2) 学習の決まり「学習あたりまえ6か条」の定着
- (3) 対話を支える指導の工夫
 - ・「各学年の話し方」発達段階に応じた話型の提示
 - ・伝え合いの仕方の定着

- (4) 主体的な家庭学習の定着を図る
- ・「家庭学習の手引き」の配付
 - ・「自主学習ノート」の取り組み
 - ・家庭学習チェック表の取り組み

II 研究実践

1 金融・金銭教育にかかわる公開研究授業

(1) 第3学年 社会「店ではたらく人と仕事」

授業者 向山 潤

(2) 第4学年 総合的な学習の時間「ぶどうの値段のひみつをさぐる」
～ものの値段のきまりかた～

授業者 岩下 城

2 確かな学力・金融教育一人一実践授業

算数科（2年，特3年，特6年） 国語科（1年） 自立（特）

理科（6年） 家庭科（5年） 総合的な学習の時間（6年）

III 成果と課題

1 成果

- ・実生活に即した興味ある題材や内容を扱ったことで、子供たちは主体的に学習していた。
- ・金融・金銭教育の内容は、児童の生活に根差した興味関心が高い題材である。また、学習したことが実生活に返っていくことから、深い学びへとつながっていく。
- ・伝え合いの方法として書くことを取り入れたことが効果的だった。
- ・3年生の研究授業では、金融経済の仕組みの理解として商店の役割や働きを理解させること、さらに、キャリア教育として商店ではたらく人の工夫や願いに気付くための指導を実践することができた。
- ・4年生の研究授業では金融経済の仕組みの理解としてもものの値段が決まる仕組みの理解。さらに、キャリア教育として生産者の工夫や願いに気付くための指導を実践することができた。
- ・児童の学習意欲を高め、対話的な学びの成立に ICT の活用が効果的である。
- ・家庭学習の手引きの配付やチェック表の取り組み等を通して、家庭学習の時間の確保について全校児童におおむね定着している。
- ・自学ノートのコピーやノートを掲示することで、児童への動機づけや保護者への啓発となった。自学ノートへの取り組みについて低・高学年のブロックの教師間で話し合い、発達段階に応じた指導の工夫を交流できた。

2 課題

- ・金融教育の実践を継続していけるよう資料を保存したり、教育課程を改善したりしていくとよい。
- ・コロナ感染予防の観点から、直接の対話が制限されるが、今後も話し合いの仕方や交流方法を工夫して、対話的で深い学びにつなげていきたい。
- ・一人一台のタブレット型パソコンの導入に当たって、有効に活用できるよう、ICT研修を深めたい。
- ・「自主学習ノート」は、今後もノートの質を高めていくことや、取り組みの意欲向上につなげていくことが大切になってくる。積極的に自主学習に取り組む児童がいる一方で、毎日の宿題にも取り組めない児童がいるなど、差も大きい。家庭学習の定着や自学ノートの取り組みの定着について、継続指導していく必要がある。

（研究主任 渡邊 満智子）